

<原 著> 第44回 日本赤十字社医学会総会 優秀演題

看護助手部会による診療材料デットストック防止への取り組み

北見赤十字病院

池田 浩之 藤戸智恵子 吉村留美子 中村 文 八矢 幸美

The prevention of medical materials dead stock by nurse's aides

Hiroyuki IKEDA, Chieko FUJITO, Rumiko YOSIMURA, Aya NAKAMURA, Sachimi HACHIYA
Japanese Red Cross Kitami Hospital

Key words : 診療材料、在庫管理、デットストック

1. はじめに

病院の物品管理については、医療の質の向上、患者サービスの徹底、効率的な経営を行う上で極めて重要である。当院においては、効率よく診療材料を使用し、デットストックを無くすために平成9年よりSPD方式を取り入れた。その後初めて、平成17年12月に物品管理課が診療材料の過剰物品回収を実施した。その回収品目は768点におよび、総額1,416,396円であった。その中の期限切れ品目は、525点で総額1,089,467円だった。

SPD方式を取り入れても、定数以外に請求した物品があり、十分な管理が出来ていないことが明らかになった。それを機に病院全体で診療材料の期限切れ防止に対して検討がなされた。助手部会での、デットストック防止対策の取り組みについて報告する。

2. 看護助手部会の目的と活動

看護助手部会の目的は、看護業務に関する事項を検討・実施することにより日常業務が効果的・効率的に行えるようにすることである。

看護助手部会の活動は、①各部署より看護助手を1名選出し隔月に1回会議を開催。②看護助手部会の年間目標を計画し、会議・小グループにおいて検討。③助手部会で決定した内容は、部会委員が各部署に浸透させ実施することである。

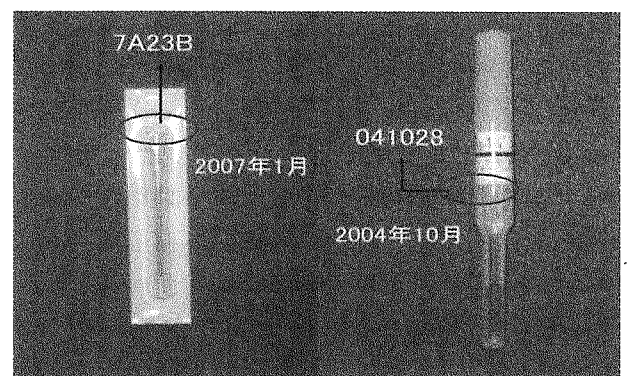
3. デットストック防止対策の経過

助手部会において、診療材料の管理の実際を調査しデットストックの原因について検討した。その結果は、SPDが導入されても、各部署において緊急時に備え常に多めに在庫していた。また、看護師が使用しやすいように、数箇所に分けて収納していた。さらに、定数以外の請求物品を使用しなくなっても返品していないことが明らかになった。

デットストック防止対策として、①物品を補充するときは、新しい物品を後ろに置く。②使用頻度が少ない物品は、常備しない。③定数を見直す。④定数以外に請求した物品は、不要になった時点で返品する。⑤3ヶ月に1回点検する。⑥期限を点検し、期限切れになる前に返品するとした。

物品の在庫管理において、有効期限・製造年月の記載が周知されていなかったため写真や一

期限切れの見方 (図1)



覧表を作成し見方を周知することとした。(図1、表1)

診療材料年月日の見方(表1)

月の見方 通常の物

アルファベット	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

T社の製品はIとJが抜けている

アルファベット	A	B	C	D	E	F	G	H	K	L	M	N
月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

製造年月日の見方1
 あたま2つ(1つ)の数字が西暦の末尾2桁(1桁)
 次の2つが月
 例 05 06 02 2005年6月2日
 例 5 06 16 3 17 2005年6月16日
 どちらも2005年6月を表す

製造月日の見方2
 例 5 F 2 1 A 2006年5月21日
 2005年6月を表す

で1,089,467(1年当たり121,052)円であった。18年は、返品数3,153個で期限切れは85個18,106円であった。19年は、返品数3,553個で期限切れは48個16,640円であった。助手部会で診療材料を点検したことで、平成17年迄と比較し期限切れが18年85%弱19年86%弱を減少させることができた。

看護助手部会において、診療材料を点検したことで、①スタッフの多くが期限を意識するようになった。②期限切れの診療材料が減少した。③カラー針1本づつでも、期限の点検や定数の適宜変更はデットストック防止に繋がることが再認識できた。④3ヶ月毎報告し集計することで、実際に金額に換算すると病院の経営に貢献できていると実感できた。

5. 今後に向けて

看護助手部会において、診療材料の点検・適宜の定数変更、収納位置の検討によりデットストック防止対策を継続して行きたいと考える。今後は、患者数やどのような処置が多いかなどを把握し在庫物品の動きを検討し在庫管理に役立てる。また、3ヶ月毎の点検と報告は継続し点検結果を基に評価し効果的な診療材料の管理に努めたいと考える。

調査結果比較(表2)

	17年(9年間)		18年		19年	
	品目	点 金額 円	回数 個	金額 円	回数 個	金額 円
返品数	768	1,416,396	3,153	444,594	3,553	389,834
返品期限切れ	525	1,089,467 (121,052円/年)	85	18,106	48	16,640

看護助手部会において計画した対策を、①から⑥を実施し3ヶ月毎に報告していった。それを基に平成17年と比較しながら18・19年の返品数と返品の期限切れ数についてまとめた。(表2)

4. 結 果

平成17年と18・19年の比較は、17年の物品管理課の調査は品目で集計しているが18・19年看護助手部会では個数で集計したため回収数が多く見える。平成17年返品数768点期限切れ525点